# 令和七年度　学校推薦型選抜Ⅰ

## 医学部保健学科看護学専攻

## 小論文（和文）

・開始の合図があるまで、表紙は開かないでください。

・問題用紙は、一枚です。

・解答用紙は、一枚です。

・下書き用紙は、一枚です。

・解答開始の合図があったら、解答を始める前に、問題用紙と解答用紙と下書き用紙の枚数を確認し、数が合わない場合は高く手を挙げ申し出てください。

・受験番号と氏名を解答用紙に記入してください。

・解答は、全て解答用紙の指定された箇所に記入してください。

・問題用紙と下書き用紙は、持ち帰って構いません。

# 令和七年度　学校推薦型選抜Ⅰ　小論文（和文）問題用紙

問題　次の課題文を読んで、設問に答えなさい。

「孤独死」という言葉は、高齢化が進んだ１９９０年代ごろからよく聞くようになった。１人で暮らす高齢者の不安と結びつけがちだが、最近は若者でも孤独死を心配する傾向があるという。一体どういうことか。

ＬＩＮＥを使った安否確認サービスを提供しているＮＰＯ法人「エンリッチ」代表の紺野功さん（64）を訪ねた。「若い人がこれほど孤独死を意識しているとは、予想もしなかった」という。この６年で15～１０５歳の延べ約１万４千人が登録し、うち約２割を10～30代が占める。

無料サービスの仕組みはシンプルだ。登録者が設定した時間帯に「お元気ですか」のメッセージを送り、「ＯＫ」の応答を受ける。無反応が続けば直接電話をかけ、出なければ近親者などの緊急連絡先へ伝える。ほとんどは応答忘れだが、約10人の登録者が病気や自殺で亡くなり、早期に発見されたという。

若者が急増したのは４年前だ。「コロナで孤独死するのが怖い。友達とはＳＮＳのつながりだけ」といった理由が目立った。最近は、飼い猫の行く末を案じた登録が多い。「ペットに癒やしを求め、もしもに備えたスマホの安否確認が心の安定剤になる時代なのでしょうか」と紺野さん。

孤独死に関する全国統計はない。だが、東京都監察医務院によると、２０２０年に東京23区内で自宅で亡くなった一人暮らしの10～30代は２７２人にのぼった。

コロナで、孤独も死も切実になったのだろうか。スマホの「ＯＫ」が、「助けて」に見える。

出典　朝日新聞「天声人語」二〇二四年八月二十二日掲載

注　段落ごとに改行し、段落の最後には句点を付けた。

［設問一］　文中の傍線部『スマホの「ＯＫ」が、「助けて」に見える』と著者が考えた理由を八〇字以上一〇〇字以内で記述しなさい。

［設問二］　課題文の内容を踏まえ、若者も高齢者も孤独死を心配せず、みんなが安心して死を迎えることができる社会の実現について、自分の考えを理由も含めて五〇〇字以上六〇〇字以内で記述しなさい。